

気になる野菜の病害虫

自然派薬剤:有機農産物栽培に使用可能な農薬として認定を受けているもの
使用回数に制限はないが、効果は遅効性なものが多い。
自然派といえども、使い方に注意

化学合成薬剤:速効性がある。使用方法、使用回数が決めている。

ダイコン

◎葉が食害され、緑色のムシがいる。 アオムシ(モンシロチョウの幼虫)

- ・葉の裏表をよく見て幼虫、卵を見つけ次第捕殺する。
- ・種蒔き直後に寒冷紗や不織布で覆って成虫の産卵を防ぐ。

薬剤を使う場合

- ・発生初期に期にゼンターリ顆粒水和剤を散布(自然派薬剤*)
- ・タネまきの前にオルトラン粒剤を散布(化学合成薬剤**)
- ・発生初期にベニカS乳剤を散布(化学合成薬剤)

◎葉裏や新芽に小さなムシがいっぱい付く アブラムシ類→ウイルス病を媒介

- ・見つけ次第捕殺する。
- ・定植時(播種時)にシルバーテープなどを使い有翅成虫の飛来を防ぐ。
- ・周辺の除草につとめる。

薬剤を使う場合

- ・発生初期にベニカマイルドスプレーを撒布(自然派薬剤)
- ・ベニカベジフルスプレーを使うか、種まき前にオルトラン粒剤を使う。

(化学合成薬剤)

◎葉の裏に白い斑点が付く。表にはできない。 白さび病(カビ)

- ・発病した葉を取り除いて他の株に移らないようにする。密植を避けて風通しをよくする。
アブラナ科野菜の連作を避ける。

薬剤を使う場合

- ・発生初期にダコニール 1000 やランマンフロアブルを植物全体にまんべんなく撒布する。(化学薬剤)

トマト

◎葉裏や新芽に小さなムシが付き、生育が遅れる アブラムシ類

- ・見つけ次第捕殺する。
- ・定植時(播種時)にシルバーテープなどを使い有翅成虫の飛来を防ぐ。
- ・チッソ肥料を効かせすぎない。
- ・周辺の除草につとめる。

薬剤を使用する場合

・ベニカマイルドスプレー、アーリーセーフを発生初期にかける。(自然派薬剤)

またはパイベニカVスプレーを撒布する。(自然派薬剤)

・発生初期にベニカグリーンVスプレー、ベニカベジフルスプレー、ベニカ水溶剤を散布する(どれか1つ)。(化学合成薬剤)

◎葉が小麦粉をまぶしたようになる。うどんこ病(カビ病)

・密植を避けて定植し、日当たり、風通しをよくする。

・被害の出た葉は早く取り除く。

・発生初期に重曹(炭酸水素ナトリウム)を1000倍に薄めて撒布する(自然農薬[食品])

薬剤を使用する場合

・発生初期にベニカマイルドスプレーを撒布する。(自然派薬剤)

・発生初期にダコニール1000、パンチョTF顆粒水和剤を散布する。(化学合成薬剤)

◎葉や茎に暗褐色の病斑ができ、白いカビが生える。トマト疫病(カビ病)

・曇天が続く、湿度の高いとできやすい。ポリマルチや敷きわらなどで泥跳ねを抑える。

薬剤を使う場合

・予防的にサンボルドーを定期撒布する。発生後は撒布間隔を短くする。(自然派薬剤)

・発生前からダコニール1000やオーソサイドを定期的に撒布する。(化学合成薬剤)

◎葉に小さな白い斑点ができ、葉裏に緑や暗赤色の小さなムシがいる。ハダニ類

・発生が多いとクモの巣のようになる。高温乾燥を好む。密植を避け、風通しをよくする。

薬剤を使う場合

・発生初期にベニカマイルドスプレーを葉裏にしっかり撒布する。(自然派薬剤)

・発生したらダニ太郎を撒布する。(化学合成薬剤)

◎果実に5mmほどの穴があき、中にムシがいる オオタバコガ(幼虫)

・蕾や葉の先がしおれていないかを確認する。丸い食害痕や小さな糞を探す。幼虫がいれば捕殺する。

薬剤を使用する場合

・幼虫が果実に入ると薬剤がかかりにくくなり効果が落ちる。幼虫が発生する前の梅雨入り前か、梅雨の前半にゼンターリ顆粒水和剤を数回撒布する。(自然派薬剤)

・カスケード乳剤を数回撒布する。(化学合成薬剤)

◎果実の先端部分が黒く変色する。尻腐れ病(生理[栄養]障害)

・カルシウム欠乏の生理障害。梅雨明け後の高温乾燥時に発症しやすい。

腐葉土や堆肥など優良な有機物を入れた土づくりをして適切に水をやり、急激な乾燥を防ぐ。植え付け前に石灰を施用してpH6前後の土にする。

薬剤を使用する場合

・開花期から実がピンポン球ぐらいになるまで、トマトの尻腐れ予防スプレーを1週間ごと撒布する。(自然派薬剤)

ナス

◎葉が葉脈を残して網目状になる。ニジュウヤホシテントウ(ジャガイモにも発生)

- ・日頃からよく観察し、成虫や幼虫や卵を見つけ次第捕殺する。
- ・収穫後の残渣(くず)は早めに処分。近くにジャガイモなどのナス科野菜があれば、そちらも注意する。

薬剤を使用する場合

- ・成虫、幼虫の発生初期にパイベニカVスプレーを撒布する。(自然派薬剤)
- ・発生初期にスミチオン乳剤を所定濃倍数に薄め、葉裏にもよくかかるように散布する。

◎小さな黒っぽいムシ(約1mm)が、葉裏にいっぱいいる。ワタアブラムシ

- ・見つけ次第つぶす(ティッシュなどでこすり取る)。
- ・光反射マルチやシルバーテープを張って有翅成虫の飛来を防ぐ。
- ・チッソ肥料を与えすぎると、アブラムシ類の発生を助長するので注意する。

薬剤を使用する場合

- ・発生初期にパイベニカVスプレーを撒布する。
- ・発生初期にベニカベジフルVスプレー、ベニカ水溶剤を散布する。

◎葉が表皮を残してかすり状になる。葉裏に幼虫が群生している。

ハスモンヨトウ(幼虫)

- ・小さい時は葉の裏に群生しているので、葉ごと取り除く。卵も塊になっているので、同様に葉ごと取り除く。幼虫が大きくなると昼間は隠れ、夜に活動するので、見つけるのが厄介。梅雨明け後、高温乾燥が続くと発生が多い。

薬剤を使用する場合

- ・発生初期にゼンターリ顆粒水和剤を散布する。(自然派薬剤)
- ・発生初期に日農ノーモルト乳剤を散布する。(化学合成薬剤)

◎葉が小麦粉をまぶしたようになる。だんだん広がる うどんこ病(カビ病)

- ・密植を避けて定植する。実を収穫する時に剪定したり、誘引して、風通しをよくする。
 - ・被害葉や落ち葉をこまめに取り除く。
 - ・発生初期に重曹(炭酸水素ナトリウム)を1000倍に薄めて撒布する(自然農薬[食品])

薬剤を使用する場合

- ・発生初期にベニカマイルドスプレー、アーリーセーフなどを撒布する。(自然派薬剤)
- ・ベニカグリーンVスプレー、ダコニール1000、パンチョTF顆粒水和剤などを撒布。
(化学合成薬剤)

◎実に穴があき、中にムシがいる。 オオタバコガ(幼虫)

- ・果実に5mmほどの大きな穴をあけて穴から褐色の糞を出す。高温乾燥の時、発生しやすい。新芽がしおれていないかよく見て、幼虫がいたら捕殺する。実の中に入っていると、実ごと処分して退治する。

薬剤を使用する場合

- ・梅雨入り前にゼンターリ顆粒水和剤、スピノエース顆粒水和剤を散布する。

(自然派薬剤)

- ・発生初期にプレバソンフロアブル5を散布する。(化学合成薬剤)

◎新葉が変形する。実の表面がうろこ状になってひび割れする。チャノホコリダニ

- ・野菜や草花、樹木など多くの植物に寄生する。夏の高温時に多く発生する。小さすぎて、0.25mm ほどで肉眼ではわからない。被害が進んでから気付くことがほとんど。周囲の除草をしっかりして、棲みかをなくす。被害を受けた株、落ち葉、残渣(くず)は早く処分する。

薬剤を使用する場合

- ・新芽や新葉が萎縮し、奇形になったらアーリーセーフを葉裏や新芽を中心に
ていねいに散布する。(自然派薬剤)

- ・発生初期にモレスタン水和剤を散布する。(化学合成薬剤)

◎葉に小さな斑点がつく。葉が黄色っぽく見える。葉裏に点点のような小さなムシがいる。

カンザワハダニ

- ・葉裏に潜んでいる。吸汁性害虫で吸い痕が白い斑点になる。0.5mm ほどで肉眼ではなかなか見えない。高温乾燥を好み梅雨明け後に被害が目立つ。梅雨明け後、敷きわらなどのマルチをする。密植を避けて風通しをよくする。

薬剤を使用する場合

- ・発生初期にベニカマイルドスプレーやパイベニカVスプレーを散布。(自然派薬剤)

- ・ダニ太郎、バロックフロアブルを散布する。(化学合成薬剤)